

大学版画研究会
会報 9
1982.4

銅版画編

昨年のフランス・中国との第一回大学版画国際交流展は意義深いものであった。本年は、オーストリア・アメリカの各大学との交流展となる予定である。

フランスに送られた日本の学生諸君の作品は、パリ国立美術学校の附属ギャラリーで展示された後、パリ国立図書館に保存されることになっている。中国は、北京を始め全国の各美術大学を巡回中である。

1月19日美術家連盟で中国版画家代表団の歓迎会があり、団員の一人である趙宗藻氏（浙江美術学院版画科主任）は、今回の大学版画国際交流展について謝意を表していた。また9月には、今までの学生の買上げ作品が、静岡の常葉短大で展示されて好評であった。

大学版画研究会自体は、九年目を迎えて研究会自体の活動から、各大学での実質的な活動と着実な業績に移りつつあるように見える。美術大学に於ける版画指導の先生方が、一ヶ所に集まって版画科の設置をと叫んだ単一の目的から、各大学の実状に合ったさまざまな位置づけや、形態を模索しながら充実した活動を続けている。それは池に投げられた一個の波紋が、さまざまな形で広がって行くさまのようである。波紋は広がりつつ淡くなって行くが、それは版画が特種なものから、一般化されて行くことのように思える。そのことが日本の美術教育にとってどうであったかは、歴史が証明するところである。

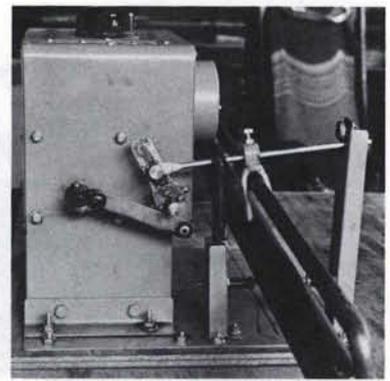
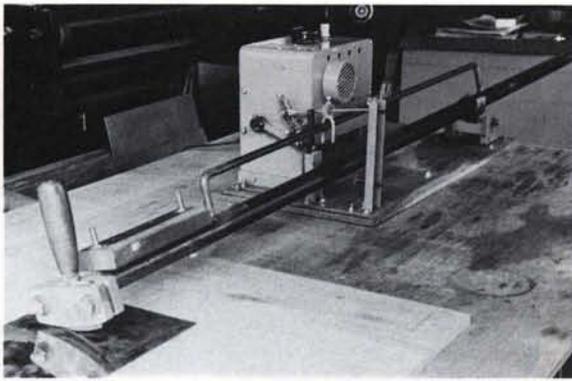
会報も当然、同じ流れの中で運動色の強いものから、各大学の現状報告となり、現在はより充実した各個人の研究内容となりつつある。今回は銅版画における研究を特集する。これは編集の方々の御努力によって、各大学で十分に生かされる貴重な資料になることだろう。

版画のように材料や技術が、重要な要素を持ちうる美術では、ある技法を自分だけのものとして成り立つ部分もありうるが、それを共同の場に持ち出し議論することで、より完全なものとなり、また発展を見ることがもできる。これが現代で言う学会の場である。美術教育は、狭い教師個人の伝承であると共に、研究としての広がりがあることでより充実した発展を得ることができる。その意味からも各作家、研究室での試作、実験の特集は、大きな意味と発展を持ちうるものとして楽しみである。

次回10号会報は、初めて東京を離れて、京都芸大を中心に関西に舞台が移る。会報も大学版画展も東京中心ではなく、できれば全国各都市を移動して行くことが願いであるが、まだまだ各大学とも版画の専任教員数が少なく、思うにまかせないのが実状である。京都芸大も桂への校舎移転が終ったばかりでお疲れのところを引き受けていただき、感謝する次第である。

できれば、これを機会に編集が自由に移って行けば、異った角度で鮮度も増し、研究会が会員全体のものとしての広がりも強いものとなるだろうと期待するところである。

▶ 研究

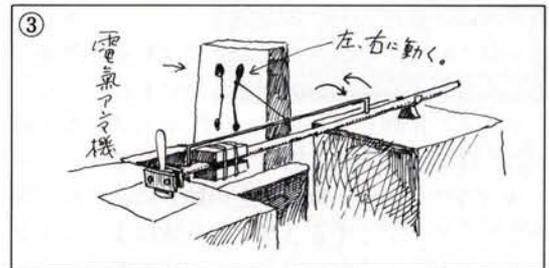


メゾチント原版製作機

深沢幸雄

上の写真は僕のアトリエの一隅で、誠実に、愚直に、ひたすらベルソーをゆすりつ、前進するメゾチントの原版製作機（チンタラ号と命名）である。改良の余地はあるが強いての要請なので書く。

メゾチントの画集を依頼されていた。だが面倒なことの嫌いな僕にとって、あの漆黒の効果にひどく惹かれるにもかかわらず、それは地獄の作業の様に思えた。楽にできる工具がある筈である。いろいろ考えていた。何号か前に梅沢さんがこの会報にこの工具ロッキング棒について書いていた。ナルホドねえ、ヨーロッパにも不精な奴がいたんだねえ。そしてそれは僕の考えていたものと大体同じ様だったので甚だ満足し試作する。①



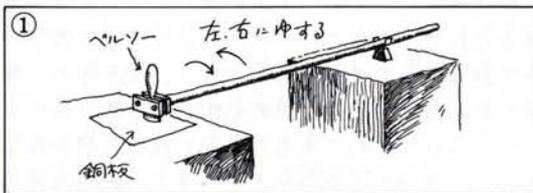
ところが電気アンマ機とか、掃除機のモーターと云うのは長時間用にはできていない。終日動かしているとコイルが臭気を発してくる。そこでこのアンマ機を分解し構造をしらべた。

モーターが大きな円輪をまわし、この円輪は減速すると共に、円運動を直線運動に変えるクランクを廻している。ナルホド、これなら新しく作った方がいい。

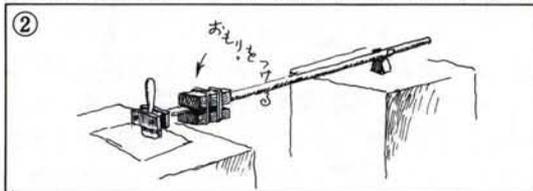
大体このゲンシユクなるべき芸術の、メゾチントの原版をアンマ機が動かしていると云うのは、何としても僕自体が怠け者にみえすぎる。僕のアトリエに来た人々は先づ腹をかかえて笑うのである。肩がコッタ僕がゆったりと坐って肩をもみながら眼をうっすらとあけていると、その肩をもんでいるモミ具にしばりつけた棒がメゾチントのベルソーを動かしているなんてのは、少しマンガチックに過ぎはしないか？ 原理とプランが出来上がった。早速近所に住む友人を呼ぶ。この友人、雑貨屋の主人であるが天才的な手先をもって物を創り出す名人である。彼は眼を光らせ、二週間かけて完成した。（上図写真の機械）

大きな、超大型のベルソーを作ろう。それをこのチンタラ号についたら8号や10号大の原版でも数時間で緻密無比のものができ上るに違いない。

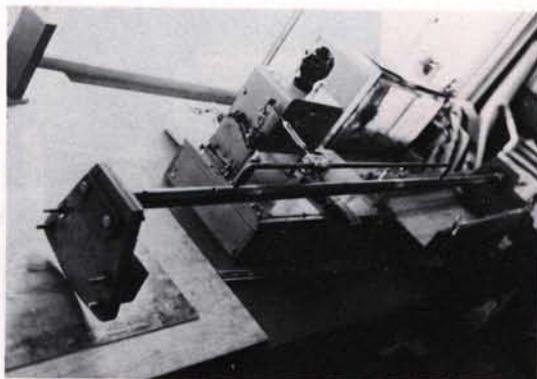
今度はベルソーに挑戦してみたい。
註、現在のロッキング棒は鉄製である。



②木で作った。軽かった。だがこれがチンタラ号の生れる契機となった。重りをつけたのである。



③これは一層巧くゆくとぐちとなった。重りで彫りこみの深さは一定し、時計の振子の様に、小指でふれるだけで正確に前進してゆく。よーし、それなら上部にゆする棒をつけてやろう。僕は肩がコル質なので、アトリエの一角に電気アンマ機（椅子型）がおいてある。これに連結すれば手でふれることなく前進し刻んでゆくであろう。

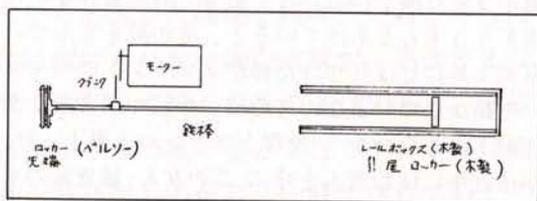


“メゾチント・チントラ号” 深沢氏改良後のもの1
チントラ号訪問記

日本にはロボットが8万台有ると言うが8万1台目がこれですと言うチントラ号は私達が想像していたものよりはるかに大きく重いものでした。

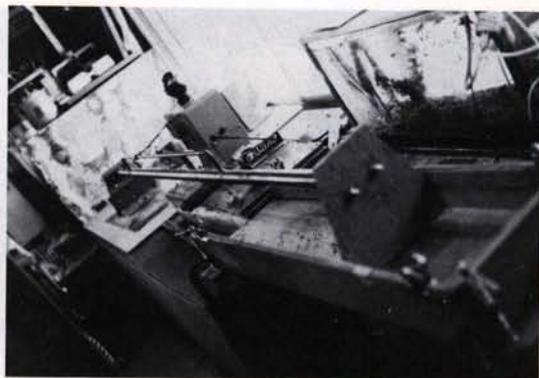
さっそく作動してもらおう。まず、テープを版の裏面につけてペニヤ板に固定する。そしてロッカーと後ろのロッカーとの直線上の動きに合わせて銅版をセッティングする（機械の性質によってかならずしも直線上にない場合、レールを都合の良い位置におき変えるか、銅版の角度を確認する。）

セッティングが終わってスイッチをいれるとモーターの音とともにクランクを通してベルソーが不思議なくらい均一に、やや速く、ゆれ動いていく。目立の深さもそれ自身の重さでかなり深く、密度も調度良い具合である。この密度の微調整は、後ろのレールボックスで操作出来ると言うことです。レールボックスの側面に約4～5mm厚の板を置くと、後ろのロッカーはゆれながら両面に軽くあたり、その反動でおどりながら前進する。このおどりが目立の間隔を生み、自分の希望する密度が得られるそうです。（図Ⅲを参考）



図Ⅰ 全体 (上からみた図)

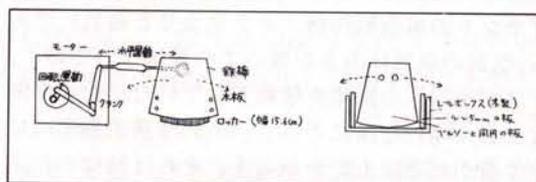
次に深沢さんが、さらに改良するなら次の様にしたらいと御紹介されたのを書きたいと思います。モーターの回転ベをルトを使ってもっと大きな動輪に回転を移す。かりに、モーターが直径3cmで1秒に20回転するなら、動輪の直径を30cmにすると回転が古になって1秒に2回転になる。そうすると今のようにせせこましくなく、余裕のあ



2

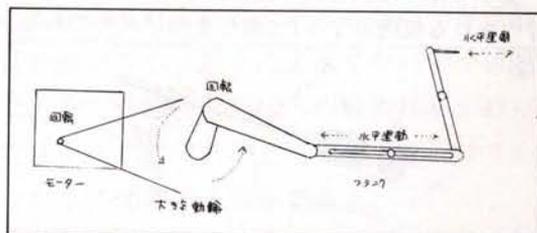
梅沢和雄

る水平運動がロッカーに与えられるとのことです。（図Ⅳを参考）

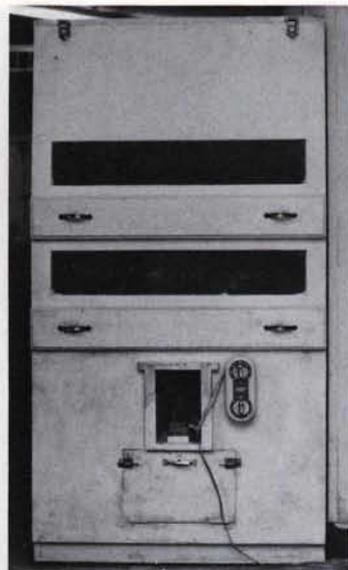
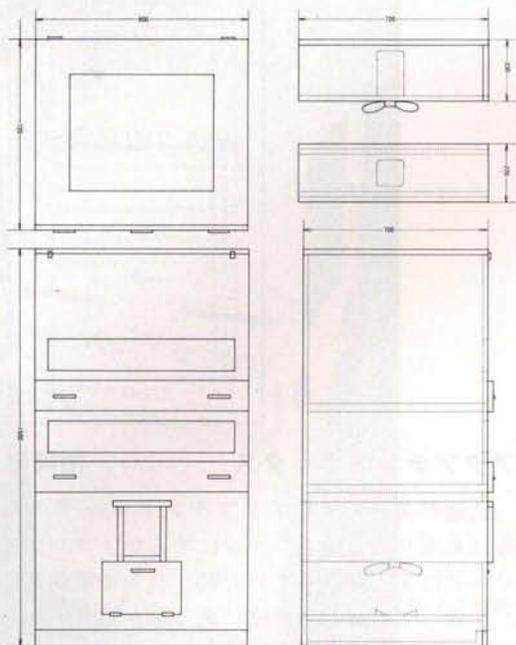


図Ⅱ モーターとベルソーの運動 図Ⅲ 後からみた図

最後に深沢さんは、機械で目立したものは手で目立したものと比べてどこか違う。均一に美しくはなるが結果として冷たさが残る。あまりにもきれいすぎる。手の動きには機械にはまねできない何かがある、と人間の手の動きのすばらしさを絶賛なされた。これは、この機械自身が単に数字の上で計算されてできたものでなく、絵かきが、現場で長い時間をかけ、思考錯誤し、その経験の上でつくられたものであるのと同じ様に、何か私はそこに人間がものをつくるということと芸術家の精神のあり方がある様な気がした。



図Ⅳ 改良案(深沢先生) モーター部分は電気アンマ機内部を利用し、モーターを普通の長時間ものにかえてスピード調整機をつけばいい。アンマ機会社に依頼して作らせたら一番良いでしょう。



アクアチントボックスの正面
下部中央の空洞の箱に扇風機が備えつけてあります。
その右にあるのは風力調節器とタイマー

アクワチントボックス試作

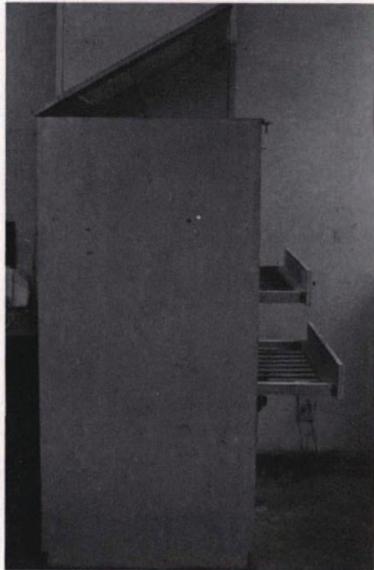
多摩美術大学油画科版画教室では、これまで2台のアクワチントボックスを製作した。これらはフィゴを用い、外部から空気を送り松脂を舞い上がらせるタイプであった。このタイプの欠点は、外部から送られた空気がアクワチントボックスの容量を越えると、逃げ場がなくなってボックス外部に、松脂と共に吹き出してくることであった。今回試作したアクワチントボックスは、外部から空気を送ることを止め、密閉されたボックスの中で風をおこし、その風力で松脂を舞い上がらせるタイプである。空気の勢いではなくて、風力で松脂を舞い上がらせるという点が、今回試作したアクワチントボックスの基本設計であった。ボックス下部に扇風機を利用したファンを装備している。

ボックス底部に入れた松脂にファンをまわして風をあて、松脂をボックス上部に舞い上がらせる。

松脂がボックス内に充満したら引き出しを出し版を置き、引き出しを閉めて松脂が版の上に落ちるのを待つ。ファンを廻して松脂を舞い上がらせるのに、約30秒、松脂が版の上に完全に落ちるまで、約15分の時間を要す。これまでにない目の細かい松脂が、ほぼ全面にむらなく版の上に落ちる結果が得られた。松脂を版に定着させて腐蝕してみると、荒目の松脂を二度腐蝕してできるような

久保卓治

調子が一度で得られた。真黒なアクワチントの調子を作る為、一度腐蝕した版に再度松脂を定着させて、腐蝕してみると、大変目の細かい耐久力のある版が製版できた。松脂が湿気を帯びると重くなり、舞い上がりづらくなるので、使用後は松脂を集めてプラスチック容器に入れ、冷蔵庫に保存して松脂を乾燥させている。このアクワチントボックス試作にあたり、次の点に注意した。ボックスの内部を明るくする為、上面の蓋に大きなガラス窓を作った。ボックスの中に入れた版が見えるように、前面にも二ヶ所、ガラス窓を作った。ガラス板の代りに透明アクリル板を使用することも考えたが、アクリル板は静電気をおこし松脂を附着させやすいので、あえてガラス板を使用した。松脂が扇風機のモーターに附着すると故障の原因となりやすいので、アクワチントボックス下部にさらに箱を作り、その内部に扇風機を備え付け、ファンだけがアクワチントボックスの内部に出るように設計した。またその箱は密閉しないで空洞にし、空気の流通を良くしてモーターの冷却をはかっている。このアクワチントボックスを利用して松脂を手撒きする場合を考え、上面の蓋を開閉式にし、引き出しを三つ作った。手撒きの場合には上の引き出しを使用している。試作後改良した



アクワチントボックス側面

上部の蓋にガラス窓を作っている。手撒きの場合は上の引き出しを使用する。引き出しには鉄の丸棒を使用している。

点は、ボックスの底部、ファンの下に、円型を描いて三角形のアルミ板を立つように取り付け、対流をおこしやすくした。これによって、まったく平らな底部であった時よりも、松脂が舞い上がりやすくなった。今後の改良点としては、ボックス下部の扉が小さく松脂の出し入れが不便なので、ボックス底部全面にも引き出しを作り、松脂の出し入れを容易にしたいと思っている。このアクワチントボックスの詳しいデータを知りたい方は、多摩美術大学油画科研究室まで御連絡下さい。

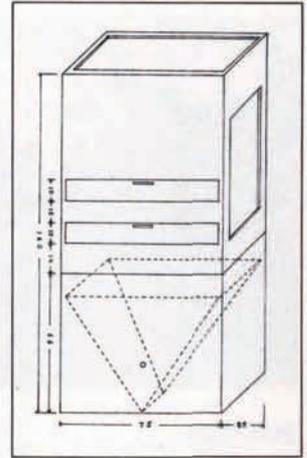


図1

アクアチントボックス

福岡奉彦

武蔵野美術大学でアクアチントボックスを作るにあたり、手動式ファンにするか、コンプレッサー式にするか迷っていた時、芸大で電動式ファンを使っでの設計図段階にある事を知り中林忠良先生に相談したところ色々な方法でアクワチントボックスを作り意見を出し合おうと言う事でコンプレッサーを使い作る事に踏み切りました。ただ一番の問題はコンプレッサーに溜った空気を一気にボックス内に入れた時、外気圧と内気圧の差がどのように変化し、粉がどのように舞うのかが心配でした。そこで 55×45×70cm の箱を作り、漏斗型受け口の足踏みフイゴで実験し、その結果気圧の関係も心配した程でも無く、粉の舞う状態も非常に良かったので安心した次第です。コンプレッサーを使うにあたってはボックスの或一点に粉体塗装式ガンを取り付ける方法とノズル形式とが考えられましたが費用の点で横吹きで粉を散らすノズル（銅管）を使う事にしました。75×85×160cm、厚さ2cmの科ベニヤでボックスを作り（写真1参照）、受け口は3面立ち上りにし、コンプレッサーは1/4馬力、モーター200V、JB1型1.3ℓを取り付けました。空気圧を逃す為上部箱と下部箱の間を合欠き継ぎにし、重なった部分を3cmにしてパッキンとして両面にフェルトを張り粉が逃げないようにしました。ボックス内も塗装をしてもらい少しでも粉の付着を防ぐようにしました。ところが学校に設置して粉を入れ機械を作動した所、粉が思うように舞い上がりませんでした。実験での段階では少量の粉末でテストをしていましたが、授業用に多量の粉を入れるとこのコンプレッサーでは無理なのと、横吹きのノズルの位置も悪かったようです。最終段階としてTYPE-FORM-



図1の現物
写真1

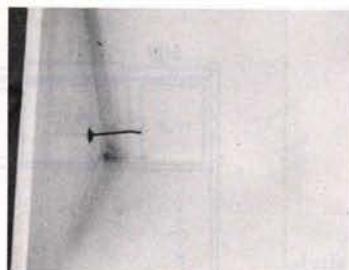


写真2



写真3

SIK-DBK3、VOLTS100V、HZ $\frac{50}{60}$ 、AMP $\frac{10}{15}$ 、R・P・M $\frac{1}{2}$ 、空気圧5.5kgのコンプレッサー(写真3参照)に変更し、180度回転出来る銅管ノズル(写真2参照)を付け45度の角度で粉末に空気圧が当るようにしました。最後に費用の点で断念しましたが空気タンクをひとまわり大きくし、3本ノズルにして受け口の3面に空気圧を当るようにすればより理想的なボックスとなるでしょう。

それと参考までに銅版画家荒木哲夫氏より聞いたパリ美校フリードランデル使用のアクアチントボックス(図2参照)を載せておきます。回転板

をまず回し、荒いマチエルが欲しい時には回転直後に版を入れ、細かいマチエルが欲しい時には1~2分放置してから回転板の上に銅板を乗せる方法です。それとアメリカのオハイオ大学のアクアチントボックス(写真4参照)を載せておきます。コンプレッサーは軍の廃物利用の超特大で180度空気圧が出るノズルが付いています。銅板を出し入れするのは引出し式で下は金網が張ってあります。

なお、このアクアチントボックスを作るにあたり、文房堂の香月大司氏にご協力をいただきました。



写真4

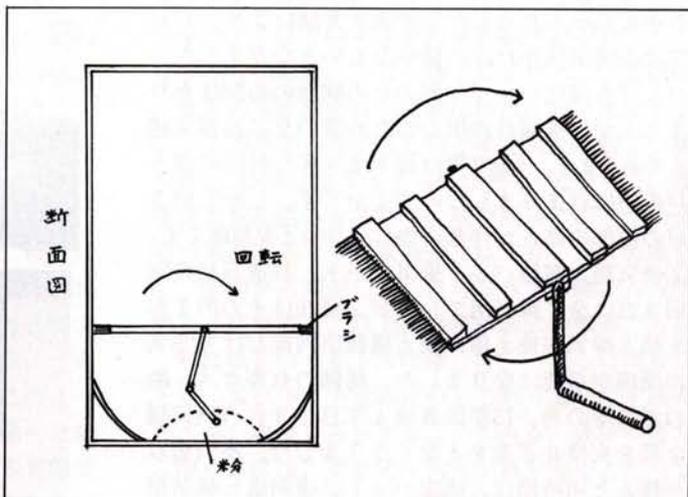
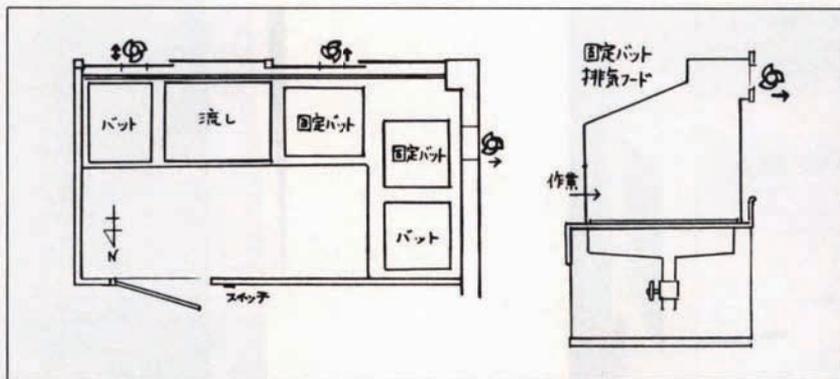


図1



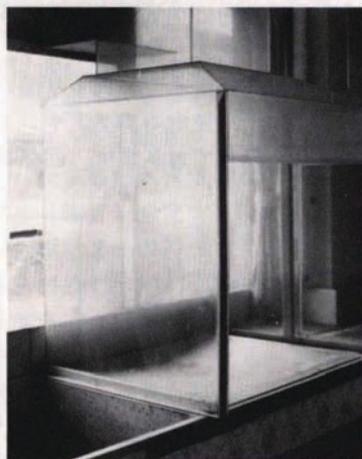
腐蝕室について(女子美版画コース)

加藤れい子

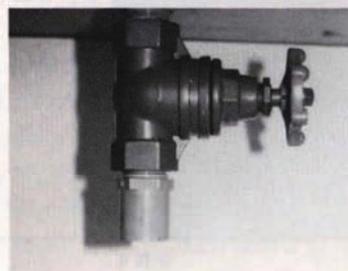
我専攻は'75年に建物が出来てから内部設計をした関係上、施設が最適の条件下にはありません。現在二ヶ所に腐蝕室が有り、描画等の作業場とは別に区切られた小部屋となっています。版画専攻生用(南側)と、主として集中講義用(北側)とに分けて使用しています。北側腐蝕室は、冬期にはバットの下にフローヒーターを敷いて使用しています。南側腐蝕室は使用頻度が高く、又日照が強い為に、腐蝕液の一定濃度を保ちにくい現状にあります。建物に付いていたカーテンは、ガス等の為ポロポロになり、ブラインドも考えましたが金属部分の耐久性の保障が無い為、金属気を持たない遮光フィルムを窓ガラスに張る方法が最適ではないかと思われます。

南側腐蝕室について、腐蝕バット4台。内2台は硝酸、1台は塩化第二鉄、後1台はその時の必要に応じた腐蝕液。設置当初から、下記の通り2回の改良を加えました。①腐蝕バットの固定。大型バットを使用する際の液の交換・掃除は、バット中央部からおろした管で流す方法により、バルブでの開閉操作だけの簡単なものとなりました。バルブも塩化ビニール製のため腐蝕の心配はありませんが、液漏れの用心のため管の下に容器を備えてあります。バルブ等は従来より作り付けの開き戸の中に取まりましたので安全です。しかし開き戸の内部の高さが作業の為には少々不足気味です。②換気扇と腐蝕バット排気フード。設置当初換気扇3台は全て排気用でしたが、現在はその内1台を吸入排気切換え用に換え腐蝕室内部だけで空気の循環が可能になりました。腐蝕の有害ガス・酸の蒸気等の為、'75年設置後4年目で3台の換気扇全部を交換せざるをえなくなりました。換気扇取り換えと同時期に、固定バットに透明塩ビ排気用フード2台を取り付けました。上図のように作業

面一面のみ半分程開け、三方を閉じて上部を換気扇まで窄めて連結させたものです。換気扇のスイッチは一ヶ所に集める方法をとっています。4台のバットに対して流しが一面ですから、流しより遠いバットを使用する場合には、よく液が滴り床面を汚してしまいます。理想的な配置としては、流しの両脇にバットをそれぞれ置くとして作業上も便利であろうと思われます。我校は住宅地に在る関係上、廃液問題もきびしくなりつつあり、普通の洗い流しは水道で済みますが、古い腐蝕液は学校から業者を通して年一回ほど処理するようになってあります。現在も多々問題がありますので、改良すべき点を考慮中であります。



(透明塩ビ排気フード)



(塩ビ製バルブ)

銅版画の紙

小山松 隆

銅版画に使用されている紙は主に溜漉の厚手のものが多い。これは制作過程で厚手が色々な意味で扱いやすいからであろう。使う人の好みや工夫があるから一概にどの紙が良いと限定できないが溜漉紙を多く使うのは銅版画の起源がヨーロッパであり、伝わった製紙法が溜漉であったから伝統的に溜漉紙を使うだけで、特別に溜漉紙が優れているわけではない。江戸時代に日本貿易を独占したオランダ船によって和紙はヨーロッパにも渡り、レンブラントは版画に好んで和紙を用いている。良質の紙料を用いた厚手の紙であれば、溜漉、流漉にかかわらず十分使用できる。

ここでは銅版画用紙としてもっとも使用されている溜漉の工程を述べてみよう。現在の溜漉の製法は後漢の蔡倫が105年に旧来の製法を改良した製紙法と基本的にほとんど変化がない。1900年に近い歳月を経た今日も同じように作られている。

溜漉の原料は、靱皮繊維、綿繊維、木材パルプなどを紙料として使う。質の高い紙ほど木材パルプをさけ、靱皮繊維、綿繊維などを使う。この理由は木材パルプの使用比率が多くなるにしたがって耐用年数が低下し、変色が激しくなるなどいくつかの問題が残っているからだ。この木材パルプは多くは亜硫酸パルプ（サルファイトパルプ、SP）が使用され短期間に酸化するのであまり良い紙料とはいえない。これらの紙料はこのままでは紙にならない。これに水分を与え、たたいて目的とする紙を漉くのに適した性質をつくる。現在は叩解機(beter)を使い機械力で作業する。叩解機には数種類あるが多くはドラム型が使用されている。叩解によって繊維が受ける変化は多様で、機械にかける時間、またかみ合う歯の調整によって、縦に細く裂かれたり、短く切断されたり、押しつぶされ膨潤コロイド化したりする変化が起る。どの変化が主になるかで紙料の性質が決る。このような変化が限られた材料から性質のまるで違った紙がうまれる。銅版画用紙は短く切断される遊離状叩解が適している。綿繊維は遊離状叩解されやす

い性質をもっているから古くから、銅版画用紙にかぎらず、水彩紙、他の版画用紙などに最も多く使用されている。遊離状に解された繊維は、一般に、水切れが良くかさばった柔かな紙ができる。ここでサイジングが同時にされる。サイズはロジン（松脂）を使うが最近ではロジンを化学処理した合成サイズも使用されている。叩解された繊維を漉舟に紙の厚さに準じて入れ、攪拌し水中に浮遊させる。この時、流漉はネリを入れるが溜漉は使用しないのが特色である。溜漉に使用される桁は上桁、下桁からなり、下桁には三角形の断面を持つ棧の上に粗い目の金網がはってありその上に細目の金網がはってある。透かしを入れる場合はこの細目に型紙をはる。漆で塗装された上桁は下桁の上に重ね、紙料を溜める役目をする。漉舟の紙料を桁にすくいこむが、紙料の濃度と桁の汲みこみの深浅によって紙の厚さを一定にする。つまり始めは浅く紙料の濃度が薄くなるにしたがってより深く汲みこむ。汲みこんだ紙料を水平に保ちながら静かに前後左右に小さくゆり動かし、静止させ、水が落ちるのを待つ。適度に水が落ちたのち立簀をし水をさらに落す。上桁をはずし、下桁を紙床の上に伏せて紙をうつす。一枚漉くたびに必ず手布を湿紙の上にのせる。これは溜漉の特長で、流漉のようにそのまま重ねると紙が剥がれにくくなるからである。一日の漉す作業が終ると湿紙は一晩そのまま置かれ、翌朝圧搾機にかけ水分をとる。圧搾の終わった紙は毛布と紙を別々に剥がし積み重ね、合紙にはさみさらに圧搾し、乾燥する。乾燥は木製の張枠を用いて、紙の周辺に糊をつけ張枠の両面に張りつけ太鼓張りにする。天日乾燥をし、張枠から剥がして一枚毎にきずや塵の入った部分を修整する。以上が溜漉紙製法の概要である。

私は紙をつくる工人に接して、一番心に残ることは、滅びゆく手漉紙を心をこめて造りだす誠実な人々が数多く存在することである。彼等の努力に酬いるには、紙を使う人々が紙を造る人々の心を知ることはないかと思う。

▶ 銅版画材料関係リスト

今回、銅版画材料店リストを制作した主旨については、アンケートにも述べました通り、地域ごとの材料店についての情報交換と、学生が帰郷して後制作を続けるにあたり材料の入手をより容易にする為に材料店のリストがあれば便利と考え作りました。今回のリストは、アンケートの答えにもとずき制作しましたが、右図の通りまだ不完全ですが、今後引き続き調べてゆきたいと考えますので御協力をお願いします。

下記の表は、県単位で画材店A・金属店(版材店)B・材料店(印刷材料店及び薬局(用具含む))C・金物塗料店D・溶剤店Eの順にまとめました。画材店はほとんどの地域が、東京、大阪の卸業者と取引があり、注文のあった品を取引き業者に発注する方法をとっているようです。又大手画材卸店では、ある程度注文がまとまれば大学関係は運賃無料で地方発送も可能となります。金属店は各地に在り版材の入手は容易なようです。材料店は画材店ではありませんが、版画に使用する材料

又印刷材料、防蝕剤の原料、腐蝕液及び溶剤、それに用具の入手可能な店を指しています。薬局は原料腐蝕液、溶剤を扱っているのこの内にも含まれました。金物店は用具類、塗料店は防蝕用樹脂類及び溶剤、溶剤店は各種溶剤を扱っている店というような基準で分類しA～Eの記号で表示しました。



北海道 (札幌大谷短期大学・北海道教育大学岩見沢校舎調べ)

- A** オーク画材 札幌市中央区北1条西3-3
TEL 011-261-8971
- B** 大丸藤井セントラル 札幌市中央区南1条西3丁目
TEL 011-231-1131
- B** 福本商店 札幌市中央区南5条西1丁目
TEL 011-511-7321
- B D** 日浦金物店 夕張市本町4丁目
TEL 01235-2-2237
- B** 柿本商店 岩見沢市1条西1丁目
TEL 0126-22-4022
- C** エンゼルドラッグ 札幌市東区北15条東8丁目
TEL 011-741-3000
- C** 菊見商店 札幌市中央区南6条西16丁目
TEL 011-551-1751
- C** 斉藤商店 札幌市中央区南1条西2丁目
TEL 011-221-7171
- C** 東洋商会 札幌市白石区南郷通り
TEL 011-863-2751
- C** ふじや理化器械 札幌市北区太平12条7丁目72
TEL 011-772-5231
- D** 青木鋼商 札幌市中央区南3条西1丁目
TEL 011-241-5311
- D** 市甚 札幌市中央区南7条西4丁目
TEL 011-511-2094
- E** 勝木石油 札幌市中央区北1条西3丁目
TEL 011-251-5221
- E** 玉木塗料店 札幌市中央区南1条西5丁目
TEL 011-231-4015

秋田 (秋田大学調べ)

- A** 秋田彩画堂 秋田市大町3丁目3-46
TEL 0188-62-6954
- B** 管長K.K 秋田市川尻大川反233-61
TEL 0188-62-1211
- B** みどり光学社(写真材料) 秋田市旭北錦町2-36
TEL 0188-62-5180
- C** 佐藤商事 秋田市大町1丁目5-2
TEL 0188-62-3571
- C** 十字屋薬局 秋田市大町1丁目5-2
TEL 0188-62-2004
- C** 富士印刷器材 秋田市千秋城下町5-6
TEL 0188-33-3871
- D** 中村塗料店 秋田市寺内字蛭根85-22
TEL 0188-63-2005

岩手 (岩手大学調べ)

- A** 紅画堂 盛岡市本町通1-17
TEL 0196-22-8521
- A** 彩画堂 盛岡市内丸6-10
TEL 0196-22-7249
- B** 森政吉商店 盛岡市本町通1-7
TEL 0196-23-5255
- C** 鎌田商店 盛岡市上田1丁目18
TEL 0196-22-8765
- C** 北星化学 盛岡市上田3丁目5
TEL 0196-24-1551
- D** 加藤塗料店 盛岡市香町3丁目
TEL 0196-23-1471

栃木 (宇都宮大学調べ)

- A B C** 白木屋画材店 宇都宮市伝馬町1-4
TEL 0286-33-3258

茨城 (筑波大調べ)

- A C** 画翠 新治郡桜村天王台
TEL 0298-52-2914
- C** 中山商事 谷田部町小野崎南小池
TEL 02975-6-1355

愛知 (愛知教育大調べ)

- A** 画荘ヴィーナス 名古屋市中区新栄町3-3
TEL 052-961-0591
- A** キタムラ 名古屋市中区栄町3(北村ビル)
TEL 052-241-6880
- A** 彩雲堂 岡崎市康生通南1-17
TEL 0564-21-4844
- A** 島本画材 名古屋市中区赤塚町2-17-2
TEL 052-931-4020 (島本ビル)
- B** 市原金属産業 名古屋市中区不二見(地下鉄上前津)
TEL 052-331-8811 駅南100m
- B** 岩間金属 名古屋市中区千代田2丁目16-21
TEL 052-261-2521
- C E** 伊勢久 名古屋市中区千代田2丁目16-21
TEL 052-961-8311
- 伊勢久名古屋東営業所 名古屋市中区猪高和光ビル
TEL 052-774-7331
- C** 和光純薬工業名古屋出張所 名古屋市中区猪高猪子石小坂
TEL 052-772-0788
- D** カーマホームセンター刈谷店 刈谷市日高町4-1
TEL 0566-22-0012
- ※カーマホームセンター支店 豊橋・小牧・西尾・瀬戸・浜松・岐阜・稲沢・安城・一宮・名務原・四日市・名古屋西

京都 (京都市立芸術大学調べ)

- A 足立顔料店** 京都市下京区河原町松原大和
TEL 075-561-3262 大路東入
- A 画箋堂** 京都市下京区河原町通五条上ル
TEL 075-341-3288
- A 大地堂西店** 京都市上京区河原町今出川東南角
TEL 075-222-0808
- A 森田和紙** 京都市下京区東洞院仏光寺上ル
TEL 075-341-0121
- B 角井商店** 京都市東山区東山三条上ル東側
TEL 075-771-2551
- C E 有田薬局** 京都市中京区河原町三条西入ル
TEL 075-221-4921
- C 上野化学工業** 京都市右京区四条春日西
TEL 075-312-3426
- C 岡田インク** 京都市中京区御幸町六角下ル西側
TEL 075-221-1957
- C E 小山薬局** 京都市東山区今熊野
TEL 075-561-2468

大阪 (京都市立芸術大学・高知大学調べ)

- A カワチ** 大阪市南区心斎橋筋1丁目43
TEL 06-252-5800
- A 新日本造形大阪支社** 大阪市東区森之宮中央1-6-20
TEL 06-943-1141
- A 土井画材センター** 天王寺区上汐町5-18-2
TEL 06-772-2823~7
- B 大河内金属** 大阪市淀川区長柄中2丁目3
TEL 06-353-3357
- B C クラタ商店** 大阪市鶴見区茨田諸口町1118
TEL 06-911-6561
- C 菊田商店大阪店** 大阪市東区森の宮中央1-22-13
TEL 06-941-3312~3
- C 富士薬品工業** 吹田市豊津町22-1
TEL 06-384-1351

高知 (高知大学調べ)

- A 松浦屋商店** 高知市帯屋町2-2-19
TEL 0888-72-2584
- D バスヤ金物店** 高知市曙町1-5
TEL 0888-44-1406

福岡 (九州産業大学調べ)

- A 山本文房堂** 福岡市中央区大名2-4-32
TEL 092-751-4342
- B D 三宅商店** 福岡市東区箱崎1丁目29-20
TEL 092-651-8117
- C 九州片山化学** 福岡市東区多の津1丁目1
TEL 092-621-3011
- C 西岡弘英社** 福岡市中央区大名1丁目12
TEL 092-741-4338
- D 毛利塗料店** 福岡市博多区上呉服町12-22
TEL 092-291-1267
- E 大平石油本社** 福岡市博多区博多駅東一丁目1-33
東営業所 TEL 092-661-0114 (東営業所)
- 東京** (女子美大・創形学園・玉川大・多摩美大・東京芸大・日大・文化学院・武蔵美大調べ)

- A 上松絵具店** 渋谷区渋谷2-20-8
TEL 03-400-5556
- A 画翠本店** 千代田区神田駿河台2-6
TEL 03-291-9120
- A 画翠芸大店** 台東区上野公園芸大内
TEL 03-821-7056
- A 画荘ヴィーナス** 新宿区西新宿1-15-13
TEL 03-346-2428 (肝ビル2F)
- A B C 新日本造形** 中野区新井1-42-8
TEL 03-389-1221
- A 世界堂** 新宿区新宿3-1-29
TEL 03-356-1515 (343-6551)
- A 竹尾洋紙店** 千代田区神田錦町3-18
TEL 03-292-3611
- A 土井画材センター** 豊島区東池袋2-59-6
東京営業所 TEL 03-983-7291
- A 土井福応堂東京店** 小平市小川町1-736 (武蔵野美大内)
TEL 0423-41-5011
- A びげん** 世田谷区尾山台3-33-5
TEL 03-702-2118
- A B C びげん** 世田谷区等々力3-32-9

A 美術出版社サービスセンター

- A B C 文房堂** 新宿区市谷本村町16-13
TEL 03-260-2388
- 千代田区神田神保町1-21
TEL 03-291-3441
- 中野区中央2-36-12
TEL 03-371-1303
- 八王子市横山町8-5
TEL 0426-46-4144
- 中央区八重洲2-6-10
TEL 03-281-1667
- 台東区元浅草2-10-9
TEL 03-843-5941-3
- 港区南青山3-18-17
TEL 04-405-6765
- 千代田区神田紺屋町43
TEL 03-256-3591
- 町田市金森1092
TEL 0427-96-4888
- 北区滝野川6-45-9
TEL 03-916-3611(代)
- 小平市鷹の台
TEL 0423-44-6519
- 文京区本駒込3-8-2
TEL 03-821-7131
- 台東区北上野2-12-12
TEL 03-844-3732
- 台東区台東1-10-5
TEL 03-831-1929
- 千代田区神田神保町2-38
TEL 03-261-6379-8023
- 文京区本駒込5-28-5
TEL 03-823-7261
- 中央区京橋2-3-13
TEL 03-272-5711(代)
- 千代田区神田神保町1-1
TEL 03-291-0334
- 練馬区旭丘1-56
TEL 03-950-2511
- 千代田区神田須田町1-28
TEL 03-252-8294
- 台東区寿2-1-14
TEL 03-842-5561
- 千代田区神田神保町3-7
TEL 03-263-3556
- 中央区日本橋本町4-3
TEL 03-243-0861~5
- 練馬区旭丘1-74
TEL 03-953-0022
- 千代田区神田小川町1-4
TEL 03-2518451
- 小平市小川町1丁目
TEL 0423-41-0079
- 小平市仲町632
TEL 0423-45-1711
- 町田市原町田5-7-21
TEL 0427-22-2057
- E 遠藤度量衡** 八王子市八幡町8-2
TEL 0426-25-2476
- 墨田区立花1-6-8
TEL 03-612-7747

C ときや刃物店**C E 仁生堂薬局****C 西村フェルト K.K.****C 林フェルト****C 吉田商会****C 油蠟薬局 (原料)****D 足立金物店****D 新井商店 (工具)****D 金子金物店****D 東海塗料店****D 平野屋金物店****E 遠藤度量衡****E B 兼松商店****その他****中條製版所 (メッキ)****沖茂八 (製紙業 MO 紙)****尾崎製紙 (尾崎金俊)**

- 中央区銀座1-21-5
TEL 03-561-2709-6670
- 福井県今立町大滝25-2
TEL 07784-2-0576
- 高知県吾川郡伊野町加田63
TEL 08889-2-0092
- (文責 馬場 章)



全国美術大学版画展を終えて

去る9月10日～27日まで開催された常葉美術館での「全国美術大学版画展」は、美術学生の意欲的な高レベルの版画作品82点を公開展示し、少くとも当短大の学生、あるいは一般にもじかに接見勉学の機会を得たことは幸運であった。

当短大では版画授業を行う上で今回の展示は貴重な資料提供であったし、学生に大きな刺激を与えたことを確信している。更に一般公開によって版画に対する狭い既成のイメージから幅広い版種と版画の可能性、追求があることの理解と認識を得られた内容であったことを御報告申し上げたいと思います。

一方、今回の企画展を行った際に、大学版画研究会の存在、及び活動の内容と状況、日本版画研究会の役割、大学版画展開催についても多くの理解が得られたことは収穫であった。

今回の展覧の準備段階で随分手間どる件も多々あったが成功のうちに終了したと思われる。ただ高度な作品の数々であるだけに、今後更に教育環境の現場で展示可能な場を出来る限り確保し公開してみる必要を痛切に感じます。その際に額縁の有無だけが問題となって来るだろうと思われます。

当企画展期間中に、学内外を含め2500名近くの入場者を教えたが、後援をお願いした大学版画研究会、日本版画保存会に改めてお礼を申し上げる次第です。

〈経過報告〉

- 1980 7 当短期大学美術・デザイン研究室主催で「全国美術大学版画展」として企画提案。
- 8 伊東正悟氏を通して、吹田文明会長へ企画展開催の打診を行い承諾を得る。
- 11 版画展開催について常葉美術館運営委



坂田和之

員会の正式な承認を得る。

- 1981 2 大学版画研究会の事務局へ企画展の開催について連絡。その際日本版画保存会から作品借用の規約等の有無を確認するが返答なし。
- 5 日本版画保存会（代表・吉沢氏）へ直接企画展内容と常葉美術館活動状況を知らせる。無料で貸出しが可能と額縁は無いとの返事。
- 6 日本版画保存会へ作品借用に出向く。
 - ①今回初めての貸出しの為、規約等は一切無。
 - ②借用作品は比較的整理がついていた第1・3・5回展の89点全てを借用。
 - ③借用期間は6/13～10/10までとする。借用書提出。
 - ④額縁は全て短大で準備。
- 7 借用作品全ての寸法、氏名、画題、大学名のリスト作成開始。
 - ①保存良好だが、各作品の台紙とカバーを全てやり直す。
 - ②買上げ以外の作品が数点入っていた。
 - ③出品作品を82点とし、額縁、マットを注文。
 - ④ポスター、カタログ、招待状、入館券の印刷。(ポスターに若月公平氏の銅版画を使用し本人のご了解を得ました。)
- 8 印刷物の配布を行い、作品の額装を終了し展示する。
- 9 9/10～27まで開催。報道関係テレビ2局が放映。新聞、雑誌関係すべて取材。
- 10 10月3日(土)、日本版画保存会へ作品の返却をする。

銅・亜鉛版による写真製版

吉田克朗

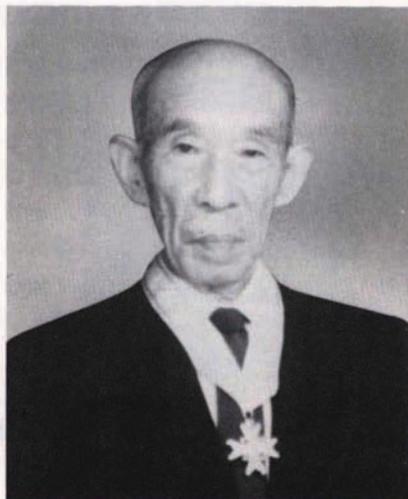
版面に感光液を塗布しそれにイメージを焼きつけて版を作成するのが写真製版です。

——まずPS版(亜鉛版)と言われるものについて。この版は版面にすでに感光液が塗布されて市販されています。解像力はかなりすぐれていて、イメージの焼付けまでは簡単にできます。露光は高圧水銀燈やカーボンアーク燈、タイプBL蛍光灯、275ワットのRSサンランプなど人工光源の他、太陽による自然光でも可能です。但し自然光の場合、経験により感光膜の色彩の変化(青色から黄緑に変わる)を知っておくと便利でしょう。現像はバット現像で苛性ソーダの0.8%溶液(水1ℓに対し苛性ソーダ8g)を使用し、1分ぐらいでイメージがでできます。この時の液温が37℃~40℃でないとうまくイメージが出てきませんので注意して下さい。イメージが出たら版を水洗し乾燥すると焼付けは終了です。これを腐蝕液に入れて腐蝕するわけですが、たとえばアクアチントをかけての腐蝕の場合、1回のアクアチントでイメージを作らなければなりません。なぜならばこの感光被膜の耐酸性は優れていますが、耐溶剤性に不便な点があります。それはアルコールに弱い為、アクアチントのかけなおしができないのです。それから市販されている版のサイズが決っている為、そのサイズより小さい版を1つ作ろうとした場合ロスが大きいことです。焼付けが終るまでは、被膜の硬度はエンピツ硬度で6Hという軟かさなので、とても定規を当てて切るわけにはいきません。これらのことを考慮すれば感光液の塗布という面倒もありませんし、焼付けの簡便さという点等、利点の多い方法です。なお露光前の版の保存は常温で冷暗所に保存し、1年間は感度にあまり問題はなりません。次に自分で版面上に塗布する感光液の使用法について。

市販されている製品名「ノンクロン」という感光液があります。これは水溶性樹脂(ノンクロン)と感光剤(センシタイザー)を混合して感光液にします。混合比は前者10に対し後者1の割合で、使用量だけ混合するといいでしょう。さてこの感光液を研磨された銅版上に塗布するわけですが、この感光液はドロドロしていて一定の厚さに被膜を作る事がむずかしい。そのため企業ではホエラーといって、ちょうどレコードのターンテーブルのような回転板の上に版をのせ、円心力でもって感光液を均一に塗布するという方法で行なってい

ます。専門の工房ならともかく銅版画を作っている個人には、このような設備をすることは大変です。そこで木工に使うハンドドリルに、ドリルの刃のかわりに吸盤をつけ、その吸盤に版をつけます。その版の上に感光液をのせ、一応版面全部に液がいきわたるように、版をかたむけて液を引いてからドリルを回します。この時あまり早く回すと、版が吸盤からはずれてトラブルの原因になります。一定の回転速度と共に、何回転させたかということを知っておけば、常にある一定の厚さに感光液が引かれるということになります。常にある一定の厚さで感光液が引かれていれば、露光時間も一定に決めることができるわけです。露光は前出のPS版の時の露光と同様です。但し感度が少々違いますのでテストをして、各個人で適性露光を見つけなければなりません。露光が終ると現像ですが、これは水現像なので、水道の蛇口にシャワーをつけてのシャワー現像が良さそうです。現像終了後、硬膜液に30秒ほど浸してから水洗します。この時硬膜液の液温は高い方が良いのですが50℃以下で使用しなければなりません。次にバーニングと言って版を焼く作業が残っています。モチ焼きアミ等に版をのせ、直接弱火で焼きます。この時色の変化に気をつけなければなりません。樹脂膜がコーヒブラウン色になった時に焼き上りです。焼きすぎて黒くなってしまふと被膜がもろくなりますので、注意しなければなりません。これで、イメージは焼きつきました。次の工程は腐蝕ですので、各々の方法で腐蝕すれば良いわけです。樹脂膜を取りのぞきたい場合、10%程度の苛性ソーダ溶液を、ハウロウのバットに入れその中に版を浸します。そのバットをガス台にでも掛けて、グラッとさせれば被膜は自然に浮き上り取れてしまいます。以上写真製版について少々書きましたが、まだ別の感光液もあり、それらはまた少しづつ違った工程が入って来たりします。注意するのは手順を考えて、工程の途中で休んだりせず、順序よく行なえばそれほどむずかしいこともなく、トラブルも少なく済みます。なおノンクロンの耐溶剤性ですが、あまり問題はないようです。アルコールは全然作用しませんので、アクアチントのかけなおしは自由にできます。耐酸性には、バーニングがきちんとできていれば問題ありません。

梅津祐司



故 松田義之先生

略歴

明治24年愛知県生れ
 大正6年東京美術学校図画師範科卒業
 10年東京美術学校助教授
 11年東京美術学校教授
 昭和34年東京芸術大学教授を退官
 37年東京芸術大学名誉教授
 43年勲三等瑞宝章受賞
 56年逝去（心不全）

松田義之先生を悼む

萩原英雄

松田先生の訃を聞いたのは、既に葬儀もすんだ後のことでした。東京美術学校の油画科に、私が学んでいた頃、先生は師範科の教授として教鞭をとられていましたが、科の異なる私は直接指導を受ける折もなく終わってしまいました。

その後、「全日本年賀状版画コンクール」の審査で、二度程お会いしたのが、先生と同席した唯一の機会でした。美校、芸大を通して、三十七年に及ぶ在職期間は、先生の温厚篤実な性格を証して余りあると言えます。

先日、かつて先生に教えを受けたN君と、先生の思い出に一時を過ごしたのです。当時小規模ながらも、美校の一隅に「版画研究室」が設けられ、物故した駒井哲郎氏なども、そこで銅版の勉強にいそんだとのことでした。先生が美術教育の分野で、つとに版画に力をそそがれたことは周知のことで、その先見を讃えて、追悼の言葉と致します。

第1回大学版画交流展は昭和56年8月3日より8月15日まで、東京丸ノ内画廊において、大阪フォルム画廊で毎年催される大学版画展と同時開催されました。フランスからの参加は文化庁在外研修員としてパリに滞在した小作青史氏のお世話によるものであり、その後、ヨーロッパへ版画研修旅行に行かれた小林忠良氏が話しを進められました。中国の参加は、北京中央学院で版画の指導に当たられた北岡文雄氏の紹介によるもので、いずれも委員会の決定により武蔵野美術大学の清水昭八氏が交渉の係として具体的に話しを進めました。フランスからはパリ国立美術学校の学生31名、銅版画34点、石版画20点が、中国からは中央美术学院、浙江美术学院、天津美术学院、四川美术学院、広州美术学院、魯迅美术学院、西安美术学院の7校40名、木版46点、銅版3点、石版1点が出品されました。東京丸ノ内画廊に、会場と104点もの額、またオープニングパーティーを快く引き受けていただき、今回の交流展を開くことが出来ました。オープニングパーティーは、初日8月3日、1時より女子美術大学の手伝いで開かれ、以前より中国・フランスの大使館へ、今回の展覧会への出席依頼をして居りましたが、時期的に夏のバカンス時でもあり、どちらにも出席をお願いすることが出来ませんでした。

フランスの石版画は石のみを使用していて、色はエルナを使っているせいか、発色が日本の学生の作品よりも美しく、銅版画はほとんどの仕事がビュランであり、その他ドライポイントが3名、エッチングが1名でした。全体的に日本の学生の方が個性のある、おもしろい作品を作っているように思われました。中国の作品は小品が多く、風景や人物を巧みに木版で彫り、白黒一版刷りがほとんどでした。今回は初めての国際交流展でしたので、様々な面にスムーズに運営しない所がありましたが、なかでもいちばん問題となったのは、互いの連絡が不十分な為、フランスでは出品した作品が戻って来ると考えていたことで、11月2日の定例連絡会議では、一応作品は最初の考え通り交換するという方針に決まりました。その後フランスからの手紙により、事務局からフランスへ作品を返送することになりました。

日本に残った外国の作品の保管について、定例連絡会議で話し合った結果、当面はまだ作品の数が少ないので、事務局が引き取り保管することになりました。また、第2回交流展はアメリカのフィラデルフィア＝タイラー大学と、オーストリア＝ウィーン美術学校が候補に上がっています。

●昭和56年8月3日。丸の内画廊にて大学国際交流展のオープニング。その後大阪フォルム画廊に席を移し、総会の後大学版画展のオープニングが開かれた。

●昭和56年度総会。

○大学版画展顧問、有地氏から7月4日(土)、学生代表者会議の報告。搬入係(東京造形大)、搬出係(文化学院)、展示係(多摩美大)、目録係(東京芸大)、オープニング係(学芸大・女子美大)、懇親会係(和光大)、スライド・スナップ写真・写真集制作(日大)、案内状・ポスター制作(武蔵野美大)、看板・カード制作(創形美術)。

○版画保存会より40万円の寄付。

○40名買上げ、交流展用に2点寄贈、足りない分を上位20名より一点ずつ寄贈。出品校34校計126点
○次回交流展にフィラデルフィア＝タイラー大学とウィーン美術学校の話があった。

○展覧会の反省として、来年はNHK・国際交流基金にバックアップを依頼。交流展の専門事務局を作り研究会の事務局と切り離す。

○芸大の事務局が2年たったので次の事務局を造形大に決定。

●11月2日定例連絡会議、東京芸大にて。

○大学版画展の写真集を日大製作、かかった経費は1冊5300円で22冊製作し、1冊を事務局が保管。
○交流展終了後の外国の作品は、事務局がケースを作り保管する。

○大学版画展の買上げ賞審査のやり方をもっとスムーズにするために委員を作る。

○会計報告、鎌谷氏よりおこなわれその後、鎌谷氏より若生秀二氏に会計係が引き継がれる。

○新事務局は東京造形大、事務局長に馬場橋男氏書記に伊東正悟氏が決まる。

(文責 梅津祐司)

第1章 総 則

- 第1条 本会は大学版画研究会と称する。
第2条 本会は会員相互の協力により大学に於ける版画教育の進歩発展をはかることを目的とする。
第3条 本会の事務所は大学の版画研究室におく。

第2章 事 業

- 第4条 本会は第2条の目的を達成するために下記の事業を行なう。
1. 機関誌、出版その他、研究調査に関する事業
2. 研究協議会の開催。
3. 研究のための専門委員会または部会を設けることがある。
4. その他本会の目的を達成するために必要な事業。

第3章 会 員

- 第5条 本会は会員を以って組織する。
第6条 会員は大学に於て版画教育にたづさわる者で入会の手続きを完了した者とする。
第7条 会員は別に定められた会費を納入しなければならない。

第4章 組織及び運営

- 第8条 本会の事業を運営するために次の役員をおく。
1. 会 長 1名
2. 事務局長 1名
3. 運営委員 若干名
第9条 会長は本会を代表する。
第10条 事務局長は庶務、会計、事務を総括する。
第11条 運営委員は事業、運営の企画を執行に当る。
第12条 本会に名誉会員、相談役、顧問、賛助会員をおくことができる。
第13条 役員は総会において選出する、任期は2年とし再任を妨げない。
第14条 本会の会議は総会、運営委員会、専門委員会とする。
1. 総会は年1回開き、本会の事業および運営に関する重要事項を審議決定する。会長は必要に応じて臨時総会を召集することができる。
2. 専門委員会は内容に即して会長が召集し案件の作製、審議に当る。
3. 運営委員会は会長が召集し、本会運営の企画に当る。

第5章 会 計

- 第15条 本会の経費は会費及び賛助会費をもってこれにあてる。

附 則

1. 第7条による会員の会費は年額2,000円とする。
2. 運営のために必要な細則は別に定める。
3. この会則は昭和49年11月3日よりこれを施行する。

▶ 名誉会員名簿

- 伊藤 廉 大阪府豊中市新千里東町2-4 メゾン千里 D7-901
〒565
- 小野 忠重 東京都杉並区阿佐ヶ谷北2-25-16
〒166
- 女屋勘左衛門 東京都目黒区本町1-10-3
〒152
- 小磯良平 兵庫県神戸市東灘区住吉町丸山御影グランドハイツ3-411
〒658
- 末松正樹 東京都世田谷区奥沢2-17-22
〒158
- 田中忠雄 東京都東久留米市学園町1-14-34
〒180-03
- 平塚 暎一 7203 Connecticut Avenue chevy chase MD
7203 20015 USA
- 福沢 一郎 東京都世田谷区砧8-14-7
〒157
- 村井正誠 東京都世田谷区中町1-6-12
〒158
- 脇田 和 東京都世田谷区代田4-14-2
〒155

- 小作 青史 世田谷区羽根木2-32-6
〒159 TEL 03-321-7221 多摩美大
- 小沼隆一郎 国分寺市本多1-10-21 札ノ丘荘102
〒185 TEL 0423-25-5144 武蔵野美大
- 小山 松隆 千葉県習志野市袖ヶ浦2-6-4-506
〒275 TEL 0474-74-6586 日 大
- 大本 靖 札幌市中央区円山西町491
〒064 TEL 011-611-0722 北海道教育大
- 太田 広 神奈川県横浜市旭区鶴ヶ峰1-28 C-21号
〒236 TEL 045-371-2561 名古屋造短大
- 岡部昌生 札幌郡広島町字西の里379-211
〒061-11 札幌大谷女子短大
- 岡部徳三 神奈川県秦野市渋沢158
〒236 TEL 0463-88-0743 一 般
- 鎌谷伸一 横浜市金沢区平潟町31-1-814
〒236 TEL 045-781-1872 芸 大
- 神山泰治 那覇市首里石嶺町4-173-11
〒903 TEL 0988-85-5814 琉球大
- 河西万丈 山梨県大月市猿橋敷上483-1
〒409 06 TEL 05542-2-6174 都留文化大
- 河内成幸 多摩市桜ヶ丘4-26-33
〒192-02 TEL 0423-71-4687 多摩美大
- 加藤れい子 埼玉県狭山市入間川4-25-23 ハウス2008
〒350-13 TEL 0429-53-9174 女子美大

▶ 会員名簿

- 阿部 浩 千代田区外神田2-18-7
〒101 TEL 03-251-1474 武蔵野美大
- 相笠昌義 座間市立野台540
〒228 TEL 0462-54-0279 女子美大
- 相沢美則 杉並区久我山5-1-22
〒168 TEL 03-334-9521 文化学院
- 青山光祐 山形市大字七浦497
〒990 TEL 山形大
- 秋元幸成 滋賀県大津市大谷町24-14
〒520 TEL 0775-25-7927 滋賀大学
- 朝比奈逸人 大阪府豊中市刀根山4-4 公務員住宅C-311
〒560 TEL 06-853-4269 大阪教育大
- 有地好登 所沢市上安松221-1
〒359 TEL 0429-44-6538 日 大
- 東谷武美 埼玉県上福岡市駒林436-3
〒356 TEL 0492-63-4779 一 般
- 稲田年行 町田市三輪町1939
〒194-01 TEL 044-988-3339 岐阜大
- 今井治男 金沢市清川町4-10 エバーグリーン 犀川405号
〒920 TEL 0762-44-5603 金沢大
- 伊東正悟 松戸市五香六実19-101
〒270 TEL 0473-86-4340 造形大
常葉短大
- 梅津 薫 北海道岩見市志分本町3条6-110 志分住宅202-12
〒068 TEL 01262-4-1975 北海道教育大
- 梅津祐司 板橋区蓮沼7-7 ハスヌマアパルトマン
〒174 TEL 03-965-8918 芸 大
- 梅沢和雄 大宮市植竹町1-537
〒330 TEL 0486-66-4238 芸 大
- 奥定一孝 松山市東野立5-1-19
〒790 TEL 愛媛大
- 小野克子 昭島市西武蔵野1388
〒196 TEL 0425-43-0891 女子美大

- 城所 祥 八王子市本町35-6
〒192 TEL 0426-22-5857 武蔵野美大
- 北岡文雄 杉並区和泉2-27-8
〒168 TEL 03-328-8361 武蔵野美術学園
- 清塚紀子 板橋区幸町13-5
〒173 TEL 03-955-2300 造形大
- 木村秀樹 大津市比叡平3-10-5
〒520 嵯峨短大
- 木村希八 鎌倉市山崎1350-4
〒248 TEL 0467-45-2223 一 般
- 久保卓治 小金井市梶野町4-11-1
〒184 多摩美大
- 小林清子 川崎市高津区野川4090の1 野川住宅2の403
〒213 TEL 044-751-0483 女子美大
- 小林次男 日野市西平山3-6-14
〒191 東洋美術
- 小林基輝 目黒区洗足2-25-17
〒152 TEL 03-781-9529 女子美大
- 桑野憲治郎 愛知県愛知郡長久手町長瀬下権田104-1 蕨荘14号
〒480-11 TEL 05616-2-0978 名古屋造形短大
- 黒田茂樹 横浜市金沢区六浦町303
〒236 TEL 045-781-4715 東洋美術
- 斎藤寿一 川崎市幸区塚越3-375
〒210 TEL 044-522-2007 和光大
- 佐藤逸平 鎌倉市台4-13-12
〒247 日 大
- 酒井忠臣 福岡県宗像市田熊1254-35
〒811-34 TEL 09403-7-0728九州産業大学芸術学部
- 笹本 純 秋田市寺内見桜281-4 見桜住宅1-406
〒011 TEL 0188-33-5261 秋田大
- 坂田和之 静岡県藤枝市若王子2-14-10
〒426 TEL 0546-43-5921 常葉短大
- 嶋 剛 大津市御陵町1-3 別所合同宿舍1011
〒520 滋賀大

▶ 会員名簿

清水昭八	小金井市梶野町4-16-27 〒184 TEL 0423-83-3733	武蔵野美大
島田章三	愛知県愛知郡長久手町芸大公会J号 〒410-01 TEL 05616-2-0885	愛知芸大
白木俊之	茨城県桜村吾妻2-815-5 〒305 TEL 0298-52-0710	筑波大
園山晴己	世田谷区駒沢2-59-5 〒154	一般
田村文雄	小平市学園西町2-12-8 〒187 TEL 0423-43-7282	女子美大
武市勝	山口県吉敷郡小郡町大正中1627-2 〒754	山口大
高橋貴和	宮城県名取市名取ヶ丘5-1-1 〒981-12	一般
高山登	仙台市荒巻字青葉 宮城教育大学 職員宿舎1-45 〒980 TEL 0222-25-0386	宮城教育大
滝沢光広	愛知県一宮市大和町代永1219 〒491 TEL 0586-44-3330	名古屋造形短大
津地威汎	徳島市中吉野町3-11-3 〒770	徳島大
燈野寿蔵	愛媛県伊予市灘町4丁目 〒799-21	一般
中林忠良	埼玉県上福岡市駒林437 〒356 TEL 0492-63-1970	芸大
野沢博行	刈谷市東境町児山79 野々山方 〒448	愛知教育大
野田哲也	小金井市本町3-14-14 〒184 TEL 0423-81-9371	芸大
長谷川光輝	鎌倉市二階堂851 〒248 TEL 0467-25-1459	日大
馬場章	川崎市高津区宮崎1-5-23 峰尾ビルB-203 〒213 TEL 044-855-8217	女子美大
馬場橋男	横浜市金沢区富岡町1197-186 〒236 TEL 045-772-1770	造形大
萩原英雄	中野区上高田5-33-8 〒164 TEL 03-386-0192	学芸大
橋本文良	京都市北区紫竹西北町33-12 〒603	京都精華大
浜西勝則	泰野市千村742-151-508 〒259-13 TEL 0463-87-3779	東海大
原健	世田谷区野沢3-13-12 〒154 TEL 03-421-2980	造形・日大
平川晋吾	宇都宮市峰町350 〒150	宇都宮大
広畑正剛	世田谷区赤堤3-5-2 〒156 TEL 03-324-0532	玉川大
深沢幸雄	千葉県鶴舞308 〒290-04 TEL 043-688-2034	多摩美大
福岡奉彦	狭山市入間川4-25-23 ハウス2006 〒350-13 TEL 0429-53-7027	武蔵野美大 女子美大
吹田文明	世田谷区砧3-33-4 〒157 TEL 03-417-7123	多摩美大
深草廣平	佐賀市本庄町西寺小路884-3 〒840 TEL 0952-24-5191	佐賀大
細田政義	世田谷区祖師ヶ谷3-39-8 〒157 TEL 03-482-3052	女子美大
堀井英男	八王子市宇津木町940-79 〒192 TEL 0426-45-3756	創形
前川直	岩手県盛岡市茶畑1-1-6 グリーンビレッジ C-411 〒192-03	岩手大
舞原克典	宇山市川田町1548-13 〒524 TEL 07758-3-0028	京都芸大
松川幸寛	狛江市岩戸北4-1-1 土屋方 〒201 TEL 03-488-4967	松本短大
松浦昇	岐阜県大垣市上面二丁目堤唐 〒503	大垣女子短大
松島順子	大田区田園調布4-29-25 〒145 TEL 03-721-3062	女子美大
松本宏	神戸市東灘区渦森台3-19-7 〒658 TEL 078-841-7336	神戸大
丸山浩司	練馬区桜台6-8-13 〒176 TEL 03-992-4020	芸大
馬淵聖	神奈川県茅ヶ崎市芹沢2511 〒253 TEL 0467-51-1497	一般
皆川孝一	東京都米子市神宝町1-8-8 〒180-03	日大
宮田克人	高知県高知市小津町10-41-532号 〒780	高知大
宮下登喜雄	府中市新町1-12 〒183 TEL 0423-61-5634	福岡教育大
村上文生	京都市右京区太秦原面影町6-1 〒616	嵯峨短大
望月詩子	西多摩郡五日市町伊奈810-4 〒190-01 TEL 0425-96-1215	一般
山下哲郎	福岡市東区香住ヶ丘2-23-11 〒813	九州産業大芸術学部
山田節子	加古川市平岡町新在家2301 〒675-01	兵庫女子短大
山中現	北区田端1-13-23 〒114	芸大
山野辺義雄	町田市広袴443-10 〒194-10 TEL 0427-34-5117	東海大
山本文彦	茨城県新治郡桜村天久保 芸術専門学郡内 〒300-31	筑波大
山本富章	愛知県愛知郡長久手町岩作三ヶ峰1-1 芸大第3住宅3-5 〒480-11 TEL 05616-2-7526	愛知芸大
吉田東	福岡市南区大字塩原226 〒815 TEL 092-541-1431	九州芸工大
吉原英雄	大阪府高槻市塚原6-18-14 〒569 TEL 0726-96-2286	京都芸大
吉田穂高	三鷹市井ノ頭1-13-40 〒181 TEL 0422-44-3923	女子美大
吉本弘	愛知県愛知郡日進町岩崎元井ヶ7-17-97 〒470-01 TEL 05617-2-3565	愛知芸大
若生秀二	日野市旭ヶ丘1-20-19 泰山荘C-201 〒191	造形大
渡辺達正	調布市上石原2-20-1 箕輪コーポ201号 〒182 TEL 0424-87-9476	多摩美大
渡辺満	相模原市橋本5-25-5 〒229	多摩美大
渡辺明信	文京区向ヶ丘1-2-5 〒113 TEL 03-813-9050	文化学院
廖修平		一般

▶ 賛助会員名簿

- 新日本造形 中野区新井1-42-8
〒165 TEL 03-389-1221
- サクラクレバス 千代田区神田三崎町3-1-16
〒101 TEL 03-263-4221
- ヌーベルセンター 千代田区神田三崎町3-1-16
クレバスビル内ヌーベル
〒101 TEL 03-262-4221
- 大阪フォルム画廊 中央区銀座6-3-2 ギャラリーセンタービル5階
〒104 TEL 03-571-0833
- 日本版画保存会 川崎市多摩区登戸3460 吉沢英哲方
〒214 TEL 044-911-9041
- 渡辺木版美術画舗 中央区銀座8-6-19
〒104 TEL 03-571-4684
- 山田商会 中央区八重洲5-5
〒104 TEL 03-281-1667・8538
- レッドランタン版画舗 京都市東山区新門前通り仲之町236
〒605 TEL 075-561-6314
- 萩原市蔵商店 千代田区神田紺屋町43
〒101 TEL 03-256-3591
- 芸大画翠 台東区上野公園12-8 東京芸術大学内
〒100 TEL 03-821-7056
- 光村団書出版 品川区上大崎2-19-9
〒141 TEL 03-493-2111
- ペンテル 千代田区東神田2-1-6
〒101 TEL 03-866-6161
- マルチプルアートセンター
(乃村工芸) 港区芝浦4-6-4 乃村工芸社
〒108 TEL 03-455-1171
- ギャラリーカプセル 中央区銀座8-16-10B401 堀江強志
〒104 TEL 03-541-4676
- びげん(本店) 世田谷区尾山台3-33-5
〒158 TEL 03-702-2118
- 梶原商店 渋谷区上原2-33-8
〒151 TEL 03-466-6117
- 文房堂 千代田区神田神保町1-21
〒101 TEL 03-291-3441
- 日動画廊 中央区銀座5-3-16
〒104 TEL 03-571-2553
- 画荘ヴィナス 新宿区西新宿1-15-13 胖ビル内
〒160 TEL 03-346-2728
- 画箋堂 京都市下京区河原町五条上ル
〒600 TEL 075-791-6131
- クラタ商店 大阪市鶴見区茨田諸口町1118
〒538 TEL 06-911-6561
- 酒井民雄 大垣市郭町3丁目 酒井書店
〒503
- 菊田商店 文京区本駒込3-8-2
〒113 TEL 03-821-7131
- 横田嘉雄 横浜市旭区金ガ谷781-13
〒241
- 武蔵野美術学園 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
〒180 TEL 0422-22-8171
- シロタ画廊 中央区銀座7-10-8 高橋ビル地下1階
〒104 TEL 03-572-7971~2
- 養清堂画廊 中央区銀座5-5-15
〒104 TEL 03-571-2471
- 阿部出版版画芸術 目黒区上目黒4-30-12
〒153
- 日本オリビエ 港区赤坂1-1-2 フランス銀行ビル内
〒107 TEL 03-582-0871 (順不同)

▶ 編集後記

今回は編集のベテラン田村文雄氏からバトンタッチ、若輩四人が迷って作った結果こんな形になりました。

次回から京都芸大に編集局を移すことになり、吉原英雄氏、舞原克典氏のご活躍が期待されます。

会報七号に掲載されました梅沢和雄氏のベルソーに関する記事にヒントを得て電動ベルソーの改良考案を進めておられました深沢幸雄氏の研究成果を中心テーマにすえ、銅版画に関する記事を編集の骨子としました。

会報執筆を会員以外の方にも依頼し、新風を送り込もうという企画第一段として吉田克朗氏に写真製版法の執筆をお願い致しました。

原稿依頼、アンケート等に心良くご協力下さいました諸先生方に厚くお礼申し上げます。

(編集スタッフ)

大学版画研究会 会報 9
1982.4

大学版画研究会 会報第9号 1982年2月

編集スタッフ 福岡奉彦/馬場 章/伊東正悟/
小林基輝

発 行 大学版画研究会

印 刷 有限会社 西 川

